

対話と信頼を大切に、創造活動を続けていきたい――

一級建築士として、40年以上にわたり市内のランドマークを数多く手掛けてきた小長谷さん。建築とまちづくりには、人との出会いや対話が大切なことを、若い世代に伝える活動も行っています。

【夢と人との巡り合わせ】

静岡市内の設計事務所で行を積み、昭和49年に独立した小長谷さん。幼い頃、建築家になる夢の種を見つけた島田に、事務所を構えました。

「小学6年生の時に、島田第二中が今の場所に移転しました。日々大きく建ち上がっていく鉄筋の構造物に心引かれ、下校途中に見入っていたのを覚えています。加えて、現場監督の甲斐甲斐しい働きぶりも印象的で、いつしか憧れの職業になっていました。

実は後に、その人と一緒に仕事をする機会が巡ってきたんです。何かに導かれたようで、本当に不思議ですよね」

【対話と信頼で図面を引く】

小長谷さんが、これまで手掛けた建築は150件以上。県内を中心に、住宅・事務所・商業施設・セミナーホールなど、幅広いジャンルの建物設計に携わってきました。



一級建築士事務所 主宰
小長谷 晃さん(旗指)

「私のモットーは、対話と信頼を大切にすること。建築士

として、原体験や原風景を創り出す社会的な役割を意識しながら、表情豊かな建物を作り上げる。それには、依頼主との対話の積み重ねが欠かせ

平成7年には、島田市都市景観賞大賞を受賞。静岡県住まいの文化賞最優秀賞を平成10年と15年に2度も受賞するなど、多くの建物が地元の街並みのランドマークとして、人々に親しまれています。

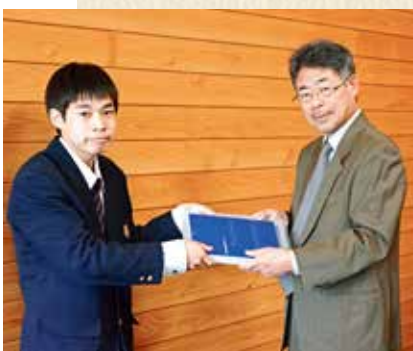
平成7年には、島田市都市景観賞大賞を受賞。静岡県住まいの文化賞最優秀賞を平成10年と15年に2度も受賞するなど、多くの建物が地元の街並みのランドマークとして、人々に親しまれています。

【建築からまちづくりへ】

自分の手を動かして考え、足で歩きながら思いを巡らせる「思考足思」の言葉を実践してきた小長谷さん。学びを止めない志が、誰かの挑戦する勇気になればと、東京大学・地域後見推進プロジェクトに参加しているほか、合気道では有段者に。ピアノレッスンでは20年間続けています。そして5年前に、若者への継承を次の目標として、行動を起こし始めました。

「私のキャリアの集大成として、作品集を今年の5月に発行し、市内の学校や図書館に寄贈しました。刊行の理由は二つ。出会った人たちへの感謝と、後進を育てず伝えることを怠ってきた反省です。その代わりになるか分からないですが、この本が若い世代にとって、建築そして地元への関心を高めるきっかけになればうれしいですね」

人と呼吸を合わせた作品が完成した時の感動は、互いが前進するエネルギー源になる。小長谷さんの思いは、これからも人をつなげ、このまちを形作っていきます。



島田工業高校の生徒に、自身の作品集を手渡し小長谷さん。タイトルは「建築ってオモシロイ」。

Shimadajin File #96

島田
Story 人